

---

# 2021年度 事業報告書

---

学校法人 東洋学園

## 目次

1 学校法人の概要	
(1) 建学の精神	… 1
(2) 設置する学校、学部・学科	… 1
(3) 沿革	… 2
(4) 組織図	… 3
(5) 設置する学校、学部、学科の入学定員、入学者数等	… 4
(6) 役員（理事・監事）、評議員	… 5～6
(7) 教職委員数等	… 7
2 事業の概要	
・ 中期計画の実行～100周年に向けて、選ばれる大学に	… 8
・ 学部・学科の概要	… 8～9
・ 教育関連活動	… 10
・ 施設・設備の拡充等	… 10
・ 認証評価への対応	… 10
・ 英語教育・国際交流の充実	… 10～12
・ 学生支援	… 12～14
・ 入学試験関連	… 14
・ 卒業終了の状況	… 14
・ 社会連携・社会貢献	… 14～15

## 2021年度 事業報告書

## 1. 学校法人の概要

【学校法人名】 ガッコウホウジン トウヨウガクエン  
学校法人 東洋学園  
(大臣認可年月日 昭和26年2月24日)

【主たる事務所】 東京都文京区本郷1丁目26番3号

(1) 建学の精神 自彊不息

本学の建学の精神として継承されてきた「自彊不息(じきょうやまず)」は、創立者・宇田尚が生涯を通して学生に伝え続けた、学びや人生の基本姿勢を表している。中国に伝わる易経の文言で、その意味は「自ら弛まず努力を続ける」ということ。大正時代、良妻賢母を良しとしていた社会通念を否定し、女性の歯科医師養成に励んだ宇田は、学生が信頼される専門家になり、自立し、自律した人間になることを求め、そのための指針として掲げたのが「自彊不息」である。時が過ぎ、社会の在り方や学校の形態は変わっても、建学の精神は不変である。「日々の努力を怠らず学びに励むことで成長し、社会を変えていく人間になってほしい」という願いを込めて、「自彊不息」を受け継いでいる。

## (2) 設置する学校、学部・学科

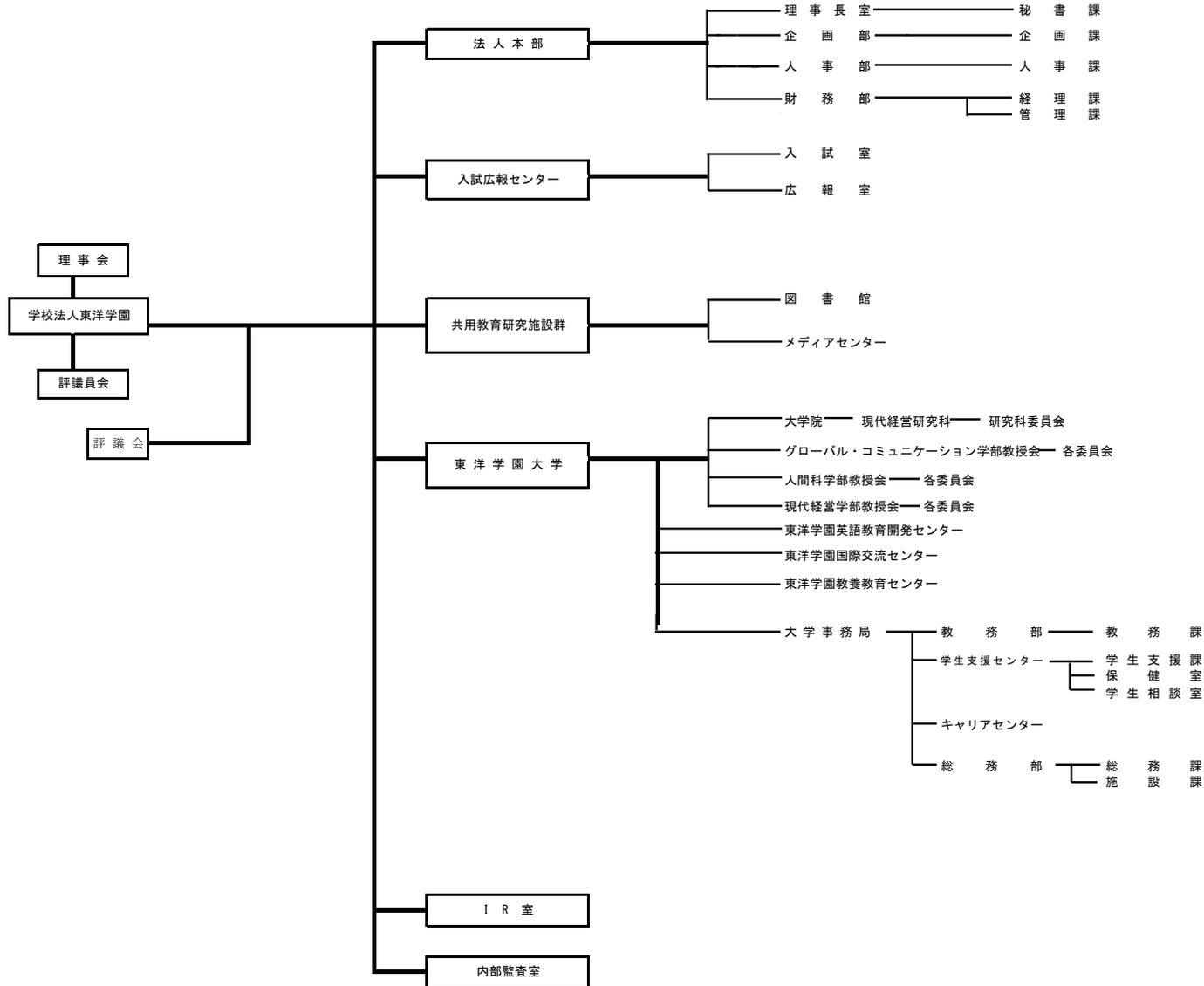
設置する学校		学部・学科等名	開設	入学	編入学	収容	2021年5月1日現在の学生数	入学	編入学	収容	2022年5月1日現在の学生数	備考
フリガナ	学校名	(所在地)	年度	定員	定員	定員		定員	定員	定員		
トウヨウガクエンダイガク	東洋学園大学	東京都文京区本郷一丁目26番3号		2021				2022				
		グローバル・コミュニケーション学部 (東京都文京区本郷一丁目26番3号)	年度	名	名	名	名	名	名	名	名	
		グローバル・コミュニケーション学科	H25	120	10	500	472	120	10	500	457	H28年度定員変更 (160人→120人)
		英語コミュニケーション学科	H25	120	10	500	467	120	10	500	402	H28年度定員変更 (80人→120人)
		人間科学部 (東京都文京区本郷一丁目26番3号)										
		人間科学科	H 14	200	20	840	832	200	20	840	815	
		現代経営学部 (東京都文京区本郷一丁目26番3号)										
		現代経営学科	H 14	215	35	930	850	215	35	930	865	
		東洋学園大学大学院 (東京都文京区本郷一丁目26番3号)										
		現代経営研究科 現代経営専攻	H 20	10	-	20	14	10	-	20	9	
		東洋学園大学 計		665	75	2,790	2,635	665	75	2,790	2,548	

### (3) 沿革

学校法人東洋学園は自彊不息(じきょうやまず)の精神を建学の理念に掲げ、女性の自立のため歯科医師を養成する東洋女子歯科医学専門学校(旧制)として1926(大正15)年に建学し、以来90余年の歴史を有します。戦禍で施設を焼失した後は東洋女子短期大学として再発足し、英語教育に力を入れてきました。1992(平成4)年から男女共学の四年制大学となり、グローバル化が進む現代にあって時代の変化に対応できる力を身につけ、世界の発展に貢献できる人材の育成を使命としています。

大正6(1917)年	9月	前身・明華女子歯科医学講習所開校(翌年、歯科医学校に改組)
大正10(1921)年	12月	専門学校令による明華女子歯科医学専門学校に改組(女子初)
大正15(1926)年	11月	東洋女子歯科医学専門学校、文部大臣指定校(女子初)として創立
昭和3(1928)年	8月	ドイツ近代復興様式の校舎・寮竣工
昭和16(1941)年	5月	全て女性による歯科医学学術大会を挙行
昭和20(1945)年	4月	第二次世界大戦の空襲により施設を焼失
昭和21(1946)年	5月	千葉県津田沼町(現習志野市)の仮校舎に移転
昭和22(1947)年	4月	第1回歯科医師国家試験、合格率全国2位の成績
	5月	学制改革により女子歯科医専の廃止決定
	9月	旧制・東洋高等学校(理科乙類=医学部予科)開校
昭和23(1948)年	11月	本郷校舎復旧
昭和25(1950)年	3月	東洋女子歯科医専第25回生、東洋高等学校第1回生卒業(最終)
	5月	新制・東洋女子短期大学(英語科)開学、英語科教員養成を開始
昭和36(1961)年	2月	本郷旧1～3号館第1期工事竣工建築家・今井兼次による「フェニックス・モザイク」完成
昭和39(1964)年	4月	コース制を設定、LL施設本格稼働開始
昭和42(1967)年	9月	千葉県流山市に流山キャンパス開設
昭和48(1973)年	4月	学科名称を英文科に変更、専攻科を設置
昭和53(1978)年	4月	学科名称を英語英文科に変更
昭和57(1982)年	4月	流山キャンパスに英米総合研究を骨子とする欧米文化学科を開設
平成4(1992)年	4月	東洋学園大学(人文学部英米地域研究学科・英米言語学科)開学
平成7(1995)年	4月	短大専攻科、学位授与機構認定となる
平成12(2000)年	4月	大学人文学部コミュニケーション学科開設
平成14(2002)年	4月	大学人文学部人間科学科、現代経営学部現代経営学科開設
平成16(2004)年	4月	大学人文学部、既存3学科を再編し国際コミュニケーション学科開設
平成18(2006)年	3月	東洋女子短期大学第55回生卒業(最終)
平成19(2007)年	3月	本郷新1号館竣工
平成20(2008)年	4月	東洋学園大学大学院 現代経営研究科現代経営専攻開設
平成25(2013)年	4月	人文学部をグローバル・コミュニケーション学部、人間科学部に再編
平成26(2014)年	4月	就学キャンパスを学部別に再編
	4月	国際キャリアプログラム(ICP)開始
平成28(2016)年	4月	就学キャンパスを本郷に統合
	11月	創立90周年

# (4) 組織図



(5)設置する学校、学部、学科の入学定員、入学者数等の状況

学校名	学部・学科名	2022年度									平均入学定員超過率 (推薦入学)
		入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数 (推薦入学)	入定充足率 (推薦入学)	収容定員	現員	収定充足率	
東洋学園大学	グローバル・コミュニケーション学部 グローバル・コミュニケーション学	120名	223名	213名	205名	78 (62名)	0.65 (0.52)	500名	457名	0.91	0.93 (0.69)
	英語コミュニケーション学科	120名	178名	171名	155名	63 (43名)	0.53 (0.36)	500名	402名	0.80	0.83 (0.56)
	人間科学部 人間科学科	200名	446名	433名	390名	188 (149名)	0.94 (0.75)	840名	815名	0.97	1.02 (0.78)
	現代経営学部 現代経営学科	215名	674名	644名	550名	231 (178名)	1.07 (0.83)	930名	865名	0.93	1.02 (0.67)
	東洋学園大学大学院 現代経営研究科 現代経営専攻	10名	2名	2名	2名	2 (0名)	0.2 (0)	20名	9名	0.45	0.55 (0)
学校名	学部・学科名	2021年度									平均入学定員超過率 (推薦入学)
		入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数 (推薦入学)	入定充足率 (推薦入学)	収容定員	現員	収定充足率	
東洋学園大学	グローバル・コミュニケーション学部 グローバル・コミュニケーション学	120名	371名	363名	268名	119 (97名)	0.99 (0.8)	500名	472名	0.94	1.03 (0.73)
	英語コミュニケーション学科	120名	321名	309名	225名	90 (62名)	0.75 (0.51)	500名	467名	0.93	1.00 (0.72)
	人間科学部 人間科学科	200名	580名	563名	381名	197 (149名)	0.99 (0.75)	840名	832名	0.99	1.07 (0.84)
	現代経営学部 現代経営学科	215名	1025名	973名	478名	196 (145名)	0.91 (0.67)	930名	850名	0.91	1.03 (0.66)
	東洋学園大学大学院 現代経営研究科 現代経営専攻	10名	9名	9名	8名	7 (0名)	0.7 (0.0)	20名	14名	0.70	0.63 (0.0)
学校名	学部・学科名	2020年度									平均入学定員超過率 (推薦入学)
		入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数 (推薦入学)	入定充足率 (推薦入学)	収容定員	現員	収定充足率	
東洋学園大学	グローバル・コミュニケーション学部 グローバル・コミュニケーション学	120名	348名	334名	194名	121名 (84名)	1.01 (0.70)	500名	445名	0.89	1.02 (0.69)
	英語コミュニケーション学科	120名	375名	365名	202名	112名 (70名)	0.93 (0.58)	500名	508名	1.02	1.15 (0.85)
	人間科学部 人間科学科	200名	693名	671名	356名	220名 (153名)	1.1 (0.77)	840名	845名	1.01	1.12 (0.89)
	現代経営学部 現代経営学科	215名	934名	877名	388名	221名 (112名)	1.03 (0.52)	930名	894名	0.96	1.13 (0.73)
	東洋学園大学大学院 現代経営研究科 現代経営専攻	10名	12名	12名	9名	9名 (0名)	0.9 (0.0)	20名	13名	0.65	0.70 (0.10)
学校名	学部・学科名	2019年度									平均入学定員超過率 (推薦入学)
		入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数 (推薦入学)	入定充足率 (推薦入学)	収容定員	現員	収定充足率	
東洋学園大学	グローバル・コミュニケーション学部 グローバル・コミュニケーション学	120名	426名	417名	206名	131名 (91名)	1.09 (0.76)	500名	424名	0.85	0.98 (0.68)
	英語コミュニケーション学科	120名	436名	424名	211名	136名 (96名)	1.13 (0.80)	500名	516名	1.03	1.18 (0.90)
	人間科学部 人間科学科	200名	568名	551名	291名	217名 (173名)	1.09 (0.87)	840名	833名	0.99	1.13 (0.96)
	現代経営学部 現代経営学科	215名	852名	825名	362名	235名 (143名)	1.09 (0.67)	930名	857名	0.92	1.11 (0.78)
	東洋学園大学大学院 現代経営研究科 現代経営専攻	10名	10名	9名	5名	4名 (0名)	0.4 (0.0)	20名	11名	0.55	0.60 (0.13)

※( )は、推薦入学(内数)。  
 ※ 4年間の状況。  
 ※ 人数等は、各年度5月1日現在の状況。  
 ※ 小数点第3位切り上げ

(6) 役員(理事・監事)、評議員

〈2021年度理事・監事〉

理事・監事の区別	職名又は担当職務	フリガナ 氏 名	常勤・非常勤の区別	選任区分等	
				号	選任区分
理 事	理事長	アイチ タロウ 愛知 太郎	常勤	2	評議員会選任
理 事	常任理事	ツジナカ ユタカ 辻中 豊	常勤	1	学 長
理 事	理 事	サカ アツオ 坂 篤郎	非常勤	2	評議員会選任
理 事	理 事	フジマキ タケシ 藤巻 健史	非常勤	2	同 上
理 事	理 事	トダ ナオコ 戸田 直子	非常勤	2	同 上
理 事	理 事	マエダ マサフミ 前田 正史	非常勤	3	学識経験者
理 事	常任理事	オオハシ ヨウスケ 大橋 洋介	常勤	3	同 上
理 事	理 事	セガワ コウヘイ 瀬川 浩平	非常勤	3	同 上
監 事	監 事	カワシマ ジュン 川島 純	非常勤	7	理事会選任
監 事	監 事	クスノキ ノブアキ 楠 誠晃	非常勤	7	同 上

(2022年3月末日現在)

理事長		5-2	理事の互選
(定数) (現員) (任期)		6-1-1	学長 (定数1名)
理 事 8名 8名 4年	選任条項	6-1-2	評議員(評議員会選任) (定数4名)
(1号除く)		6-1-3	学識経験者(理事会選任) (定数3名)
監 事 2名 2名 4年		7	監事(評議員会の同意を得て理事長が選任) (定数2名)

〈2021年度評議員〉

フリガナ 氏名	選任区分等		備考
	号	選任区分	
アヰ 太郎 愛知 太郎	2	法人職員	兼理事長
ツヅナカ ユカ 辻中 豊	1	学長	兼理事
タカオ タカユキ 高尾 享幸	2	法人職員	
アベ ハジメ 阿部 一	2	同上	
ウダ タカオ 宇田 隆生	2	同上	
トダ ナホ 戸田 直子	3	同窓生	兼理事
トヅカ ヒサコ 富塚 比咲子	3	同上	
ウチダ ミヨ 打田 美代子	3	同上	
サカ アツオ 坂 篤郎	4	学識経験者	兼理事
タナカ イオ 田中 巖	4	同上	
モリタ ヨシヒコ 森田 嘉彦	4	同上	
フジマキ タケシ 藤巻 健史	4	同上	兼理事
セガワ コウヘイ 瀬川 浩平	4	同上	兼理事
タカシマ ハツヒサ 高島 肇久	4	同上	
タナベ エイチ 田邊 栄一	4	同上	
ヨシタケ ヒロミチ 吉武 博通	4	同上	

(2022年3月末日現在)

評議員	(定数)(現員)(任期) 17名 16名 4年 (1号除く)	選任条項	21-1-1 学長(定数1名) 21-1-2 法人職員(理事会選任)(定数4名) 21-1-3 同窓生(理事会選任)(定数3名) 21-1-4 学識経験者(評議員会選任)(定数9名)
-----	--------------------------------------	------	--

## (7) 教職員数等

## [教育職員]

	2021年5月1日現在			2022年5月1日現在		
	東洋学園大学			東洋学園大学		
	学 長 愛知 太郎			学 長 辻中 豊		
	グローバル・ コミュニケーション学部	人間科学部	現代経営学部	グローバル・ コミュニケーション学部	人間科学部	現代経営学部
教 授	17名	10名	9名	15名	10名	9名
准教授	8名	6名	7名	8名	6名	8名
専任講師	7名	3名	4名	8名	3名	3名
助教		1名		0名	1名	0名
専任合計	32名	20名	20名	31名	20名	20名
兼任講師	49名	43名	45名	49名	47名	50名

## [事務職員、嘱託職員、現業・技術職員]

	2021年5月1日現在	2022年5月1日現在
事務職員、嘱託職員	76名	78名
技術職員、現業職員	0名	0名
合 計	76名	78名

## 2. 事業の概要

### 【中期計画の実行～100周年に向けて、選ばれる大学に】

「100周年に向けて、選ばれる大学に」を掲げ、2019年度に中期計画を策定し、今年度で2年目に突入した。中期計画では、単年度の実行計画をより明確化させるために、1.教育理念の明確化 2.切れ目のない教育支援 3.充実の学生生活支援 4.グローバル化と地域連携の推進 5.キャリアサポート・就職支援体制の強化 6.財政基盤の安定とガバナンスの強化という6項目を定めており、41項目の2021年度の実行計画を策定し進めてきた。達成率は67%と昨年度より20%向上した。

### 【学部・学科の概要】

#### 〈グローバル・コミュニケーション学部〉

##### グローバル・コミュニケーション学科（入学定員120名 3年次編入学定員10名）

自国や諸外国の地域や文化、社会に関する知識の理解を深めるとともに、現代社会における重要な主題や現代社会が直面する諸課題に関する知識及び社会事情について総合的に理解することにより、実際に生起する社会事象を正確に判断し、自己の考えを的確に発信することができる現代教養人としてのコミュニケーション能力を有して、ビジネスや文化交流、社会活動、地域貢献などの幅広い分野で中核的な役割を担うことができる人材の養成を目指し、以下の3コース体制で運営した。

- ・国際関係コース
- ・グローバル協力コース
- ・グローバル交流コース

##### 英語コミュニケーション学科（入学定員120名 3年次編入学定員10名）

英語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、英語の情報や相手の意向などを理解し、自分の考えを表現するコミュニケーション能力を養うとともに、英語に関する専門的な知識の理解のもとに、英語教育に関する基礎理論や指導法について理解することにより、国際社会や英語教育活動に必要となるコミュニケーション能力を有して、国際関連産業や文化関連産業、教育関連産業などの幅広い分野で活躍することができる人材の養成を目指し、以下の2コース体制で運営した。

また、教職課程が配置されており、履修により、中学校教諭一種免許状（英語）、高等学校教諭一種免許状（英語）を取得できる。

- ・英語キャリアコース
- ・英語文化コース

## 〈人間科学部〉

### 人間科学科（入学定員200名 3年次編入学定員20名）

人間に関わる諸問題を深く多角的に理解することにより、人のこころとからだの健康の維持・増進・改善等に参与し、充実した幸せな暮らしの実現に寄与することのできる能力、および社会の様々な場面における人間関係を調整する能力を習得し、豊かで実りある人と人とのつながりの実現に貢献することのできる人材の育成を目指し、以下の3コース体制で運営した。

- ・心理・カウンセリングコース
- ・スポーツ健康コース
- ・人間社会コース

## 〈現代経営学部〉

### 現代経営学科（入学定員215名 3年次編入学定員35名）

変貌を遂げる社会的環境の中で、多様化、高度化、複雑化、国際化する現代的な経営課題を的確に認識し、現代的な視点から問題解決ができる基礎的な知識や能力に加えて、21世紀の現代の社会人に求められている幅広い視野と豊かな人間性を兼ね備えた人材の育成を目的とし、以下の7コース体制で運営した。

#### （経営学専攻）

- ・企業マネジメントコース
- ・起業ショップ・経営者二世コース
- ・会計情報コース

#### （マーケティング専攻）

- ・広告・マーケティングコース
- ・流通・サービスビジネスコース

#### （経済学専攻）

- ・経済・公共コース
- ・金融コース

## 〈大学院現代経営研究科〉

### 現代経営専攻（修士課程 入学定員10名）

東洋学園大学の教育精神に則り、高度にして専門的な学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業等を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことにより、文化の進展に寄与することを目的としている。

## 【教育関連活動】

### 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う学内感染対策と授業運営の両立

昨年度に引き続き、学内感染対策を強化した上で、全授業の4割（昨年7割）をオンライン授業（・ライブ形式による同時双方向型・課題提示型・映像配信等によるオンデマンド型）にて実施。オンライン授業の利点である受講時間の柔軟性（時間の制約、繰り返し学習等）や、メディアを利用することによる教育内容の多様化、といった点に注目し、より良い教育手法として取り入れた。また、直接の対面による学生同士や学生と教職員の間の人的な交流は、豊かな人間性を涵養する上で重要な要素である為、昨年倍の6割を対面授業で実施した。なお、感染者、濃厚接触者だけでなく、ワクチン接種による体調不良においても公欠の措置をとるなどの配慮を行った。

## 【施設・設備の拡充等】

### ○新型コロナウイルス感染対策

- ・換気率が悪い教室・共同研究室・事務室・会議室の換気改善工事を行った。教室では座席数を433席増設した。（2022年度1,810席、2021年度1,377席、収容総数2,823席）

### ○1号館

- ・竣工から14年経過した照明制御設備を交換した。
- ・3階イングリッシュラウンジを拡張し、全面改装した。

### ○4号館

- ・地下1階に授業や課外活動で使用出来るトレーニングルームの利用を開始した。

## 【認証評価への対応】

公益財団法人大学基準協会による認証評価において、2018年4月1日～2025年3月31日の期間における適合認定を受けているが、努力課題として一部指摘を受けた事項については2021年6月に改善報告書を提出した。年度明けに改善報告検討結果の通知を受け、一部改善が認められない項目があるので引き続き対策を講じていく。

## 【英語教育・国際交流の充実】

### ○長期留学制度

コロナウイルスの影響で2020年度には中止していた長期留学を再開し、国際交流センター特別留学でアメリカへ長期留学に出発した学生がいた。

### ○オンライン国際交流プログラム

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い海外渡航が制限されていることから、新たな取り組みとしてオンラインによる国際交流イベントや英語講座など多様なプロ

グラムを行った。学生に異文化理解や国際的な視野を養う機会を提供した。

○ Virtual SHSU×TOGAKU

6月と10月にアメリカの協定校サム・ヒューストン州立大学（SHSU）との交流イベント“Virtual SHSU×TOGAKU”をZoomで開催した。日米のビジネス、文化について両校学生によるプレゼンテーションや、少人数に分けてグループでの意見交換などディスカッションを行った。

○ China Virtual Culture Exchange

12月に中国の協定校浙江旅游職業学院との交流イベントをZoomで開催した。「私はコロナ禍を乗り越えました（-これまでの体験と将来の夢について-）」というテーマで、双方の代表学生によるプレゼンテーションや、好きな映画、アニメ・ゲームといった話題から中華料理の話まで交流を深めた。

○ Stay Curious

インターンが英語教員監修のもと、長期留学を希望している学生向けに、海外への興味を持ち続けてもらうことを目的としたオンライン英語レッスンのプログラムを作成し、週1回8週にわたり無料のレッスンを提供した。

○ インドネシアスラバヤ大学講演会

インドネシアのスラバヤ大学経済経営学部の准教授を招き、インドネシアにおける新型コロナウイルス感染症の現状と経済対策についての講演会を行った。学生が他国について知見を広げる機会となった。

○ 柳井大使講演会

1月に外務省での総合外交政策局長（初代）や外務事務次官、駐米大使などを経て現在は国際海洋法裁判所裁判官を務める柳井俊二氏を招き、「異文化交流と日本の将来」というテーマで本学と北海道文教大学、中央学院大学との三大学共催講演会を対面とZoomで開催した。参加学生からは、将来や今後の学びに対する大きな刺激を受けたとの声が相次ぎ、非常に貴重な機会になった。

○ COIL（Collaborative Online International Learning：オンライン国際交流学習）のパイロット版プログラムを実施

2月にアメリカSHSUの学生とオンラインでのプロジェクトを行なった。長期的な留学の前段階として活用したり、留学が金銭的に難しい学生にも異文化交流体験の門戸を開くなど効果があった。教育手法の一つであるので、本学に適用するうえでの問題点を探ることで、他の分野での活用が期待されている。

○ 国際キャリアプログラム（International Career Program）

新型コロナウイルス感染症の影響により、学生の海外渡航を認めていなかったが、海外・国内の状況を鑑み、2022年度春学期からの留学を認めることとなった。そのため、通常のICP留学と異なる時期（2022年2-3月）に学生が渡航した。

○ インターン

国際交流センターにおいて、昨年度より受け入れたインターン1名について、8月より継続雇用とし、英語教育開発センターにおいて9月より1名を新規雇用とした。インターンは、授業補助やイングリッシュ・ラウンジの運営等に積極的にに関わり、学生の英語教育の充実に寄与した。

○ VEL (Virtual English Lounge)

授業期間中の平日昼休み(12:15~12:50)にZoom上でVELを開催し、英語話者の教員、インターンが学生とフリートークを行った。またカルチャーイベント、クリスマスイベントなどの行事を各学期3回ずつ実施し、学生に生きた英語に触れる機会を提供した。

○ ALPS (Academic Learning & Professional Skills : 英語特別選抜クラス)

ALPSクラスは、全学部の2~4年生を対象にした英語の特別選抜クラスであり、履修が認められた学生は、ビジネスおよび学術的な目的(論文執筆、留学、大学院進学など)のために必要とされる英語のスキルをみがく。授業は週2回行われ、毎回の課題も多いが、意欲的な学生は高い英語力とソフトスキルを身につけることができる。学年末には発表会を開催し、人物学業ともに優秀で他学生の模範となった学生2名にセンター長賞を授与し、プログラムを完了した学生にはALPS修了証を授与した。

○ 高大連携

高校生向けのバーチャル・イングリッシュ・ラウンジ体験を、高大連携の定番イベントとして高校にPRしたところ、3校から申し込みがあり、合計4回のラウンジ体験を提供した。

## 【学生支援】

学生支援センターは2019年度より、保健室、学生相談室、学生支援課で構成される新たな学生支援部門として発足し3年目を迎え、様々な場面において連携、協働し、その体制は整いつつある。主な業務は、心身の健康、クラブ活動、奨学金、修学支援、留学生、日常生活への支援などの学生生活全般と幅広く、学生が学習に専念し、安定した学生生活を送れるよう、それぞれの部署が学生支援にあたっている。

2021年度においても新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響は、所管する業務の遂行にも及ぶこととなったものの、昨年度の対応実績により、感染状況の変化に応じ、その都度慌てることなく対処した。

保健室は、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策全般から学生個々の罹患者・濃厚接触者対応までを担い、その対応方法もFormsで対応できるようにするなど、学生の利便性の向上を図った。また、学生の日々の健康維持・増進に関わる保健指導や健康相談、定期健康診断の実施、健康診断証明書の発行、体調不良や病気・ケガ等の応急処置等を行い、学生の健康や安全への配慮に努めた。

健康診断は、事前の感染予防行動を学生に促すとともに、学内における感染防止対策

を施し、計画通り3月末から4月初めのオリエンテーション期間に実施し、約9割の受診率を確保でき、コロナ禍においても学生の健康状態について大学としても十分把握出来たものと捉えている。課外活動における新型コロナウイルス感染症の感染予防対策についても、各クラブの活動内容に応じた感染予防知識の提供・注意すべき点など、正しい知識を感染予防講習会という形で提供し、学生に対する啓発・感染防止活動を行った。

学生相談室は、大学への適応や人間関係、進路、心の不調など、あらゆる事柄について相談を受け付け、また保護者・教職員と連携・協働することを通して、学生がより充実した生活を送れるように支援している。また、学生相談室は通年開室し、新型コロナウイルス感染症によるメンタルダウン等の学生に対し、学生に寄り添いながら心の変調・不調等の解消に昨年度に引き続き取り組んだ。

学生相談室の利用状況は年々増加しており、昨年度から新たに2名の非常勤カウンセラーを採用し、日々2名の体制で学生相談を受け付け、漏れなく学生対応できるよう努めている。

また、3月下旬に新入生事務手続きにおいて、UPI (University Personality Inventory) 等を用いた健康調査を実施し、高得点者等を対象に、対面または電話での呼出を入学後の早期に開始し、学生とつながることができたことも要因と捉えている。学生同士が交流できる場として、グループ活動も年間を通して実施した。実施回数はオンラインで2回、対面で3回の計5回。回の中には、新入生を対象とした活動も実施することで、新入生の大学生活への不安解消に努めた。

また、5月下旬頃より、抑うつ気分や意欲低下を訴える学生が増加したため、教員には課題提出の遅れが続く・欠席がちとなるような学生への声かけを依頼し、精神的不調が見られる場合には相談室の利用を勧めるよう依頼し、学生とつながるきっかけ作りを設け、各学生の支援に活かした。8月には外部講師による部署内研修会を開催し、相談室・保健室・学生支援課のスタッフが参加し、今後の支援体制等に活かしたい。

学生支援課は、学生生活の総合支援窓口として、日々の学生生活の支援を行っている。年度当初より、新型コロナウイルスの感染拡大の影響は少なからずあったものの、昨年度の経験を踏まえ、新入生の入学事務手続き、各学年のオリエンテーション等の学内行事は、学内における感染防止対策を十分に講じ、対面での実施となった。秋学期のオリエンテーションは、緊急事態宣言下ではあったものの、十分な感染防止対策を講じたうえで、対面とオンラインコンテンツを組み合わせたハイブリッド形式での実施となった。

学生行事については、学生総会は通信総会、春学期体育祭は中止、クラブ会員勧誘はSNS等オンラインで実施。新入生の学生団体加入状況等を踏まえ、秋学期にも対面での勧誘の場を設け、また学内に各学生団体のPRポスターを掲示するなどして、各学生団体の新入生部員獲得を支援した。学園祭も昨年度の経験を活かし、広報室の協力も得ながらライブ映像も組み込んだオンライン配信で、予定通り2日間開催することができた。秋学期体育祭については、12月上旬に種目、参加人数も制限を設けての対面開催となり、約1年ぶりではあったものの、その運営に問題はなく、無事に終了した。

各クラブの日々の活動については、昨年度に引き続き学生自らが感染防止対策を考え活動することを基本に、自覚ある活動を促した。活動を行う団体には、感染予防計画書の作成とその遵守を求め、保健室が行う感染予防講習会を受講することで、感染防止とクラブ活動（合宿等一部制限あり）の両立を図っている。

奨学金については、従来の日本学生支援機構奨学金に加え、国が所管する高等教育修学支援新制度および学生等の学びを継続するための緊急給付金制度も加わりその対応に追われることとなった。昨年度に引き続き、各奨学金申請に関わる業務を対面だけでなく

郵送での授受でも対応し、学生の利便性を考慮するとともに感染防止に努めた。

昨年度に創設された本学独自の支援策も引き続き実施した。従来の東洋学園奨学金（給付）に加え、学びの奨学金（学部生 40 万円、院生 30 万円の給付）を募集し、修学環境支援としてノート PC の貸出も行った。学びの奨学金は学部生、大学院を合わせ 35 名（春学期 22 名、秋学期 13 名）の給付となり、37 台を用意したノート PC は春学期に 37 台、秋学期に 35 台貸し出した。新型コロナウイルス感染症における公的支援一覧等の作成や更新、都度の奨学金情報の提供など、学生の経済的基盤に関わる支援情報が学生個々に行き渡るよう留意し、学生が学びの継続をあきらめることのないよう取り組んだ。

修学支援に関しては、修学支援制度の運用が開始され 3 年目を迎え、どのような支援であっても、配慮要請に至るまでの流れは定着しつつある。支援を希望する学生だけでなく、支援が必要と思われる学生については、学生相談室、保健室から修学支援制度を説明し学生支援課に繋がるケースもあり、各部署担当職員が綿密に連携し速やかな支援に取り組んでいる。また教員等への配慮要請後も対応等に不都合が生じた際には、3 部署の担当職員が都度対応にあたっている。なお、学内外に対する修学支援に関する情報公開として、2019 年度に「障がいのある学生の支援に関する方針」を学内外に示したが、引き続き情報公開の一環として、修学支援状況（2020、2021 年度の修学支援学生数、支援内容例）を広報室とも相談のうえ、秋学期に公開した。

## 【入学試験関連】

2020 年度一般選抜における手続き率（11.2%）の低迷を踏まえ、特待生の見直し（新規に入学金を免除する特待生 C を設定）、合格通知書類の工夫（AR）などを施し、2021 年度一般選抜の手続き率は 16.3%と向上した。

また、入学予定者が入学するまでの期間に同じ入学予定者、大学生、教職員と接する機会をオンラインで設け（ましましプロジェクト・トーガクミーグリ ONLINE）、試行的に実施した。

ホームページアクセス数は記録更新している一方で、入学者選抜においては出願者数に結びつかず、2 年連続での入学者減少となっている（2021 年度 560 名/2020 年度 602 名[昨年度比 6.9%減]）。

## 【卒業・終了の状況】

グローバル・コミュニケーション学部 199 名、人間科学部 190 名、現代経営学部 181 名、現代経営研究科 6 名卒業生を輩出した。

## 【社会連携・社会貢献】

### ○文京区との連携

平成 30 年 3 月に締結した「東洋学園大学と文京区との相互協力に関する協定」に基づき、2021 年度は文京区と連携して次の事業を行った。

【前期】井上ひさし『イーハトーボの劇列車』を読む（今井教授/全 4 回）

【後期】「夏目漱石を読む」—漱石文学に描かれた心象風景を中心に—（増満教授/全 4

回)

○文京区妊産婦・乳児救護所施設、文京区二次的な避難所（東洋学園大学1号館）

○文の京ロード・サポート「東洋学園大学クリーンキャンペーンチーム」

コロナ化で活動を休止していた本郷一丁目26番～本郷二丁目28番における、道路の美化清掃を2022年1月より再開した。

○公開講座（リベラルアーツ）

本郷キャンパスにおいて計7回にわたる公開講座（リベラルアーツ）を主にオンラインで実施した。

○ユーラシア財団 **from Asia** の助成による特別講座

一般財団法人ユーラシア財団 **from Asia** の助成を受け、14回にわたる特別講義をオンラインにて一般公開した。

テーマ：「ポストコロナの世界とアジア—アジア共同体への新しい可能性」

○現代経営研究会

本郷キャンパスにおいて実施している、業界・企業の経営者を招いての講座をオンラインにて一般公開した。

テーマ：「不確実な時代を読む」

○文京区本郷台中学校職場体験

9月に3日間文京区本郷台中学校18名の生徒を職場体験として4部署で受け入れた。

以上